

北八ヶ岳：天狗岳

◆日程 2017年8月26日(土)～8月27日(日)

◆メンバー L：田村

単独山行は日帰りで何度か行っているが、山に泊まる単独山行は今まで経験が無かった。先週の白駒池ハイキングで足慣らしをしたので（できたのか？）、今度はどこかの山に登頂する計画を立てたかった。ガイドブックを眺めていると、同じ北ヤツで「にゅう」という山に登る1泊2日プランが気になった。小屋泊まりのため、時間的にゆとりがあるようだ。初めての1泊2日単独山行なのであまり無理はしたくないし、足慣らしはしたとはいえ半年以上ブランクがあるので難易度の高い山は避けるのが賢明。

登山地図とにらめっこした結果、稲子湯からにゅうを登り、黒百合ヒュッテに宿泊。2日目は東天狗岳・西天狗岳に登頂し西尾根を下って渋の湯に下山するというプランを立てた。東天狗岳は雪山シーズンに一度暴風雪の中、登頂しているが天候のせいで景色を楽しむ余裕はなかった。もう一度改めて登ってみたいという気持ちがあったので、計画に取り入れた。

山行決行日が近づいてくると、気になるのは天気予報だ。予報だと一日目の土曜日は天気が悪いようだ。ここでにゅうの登頂は計画から落ちた。悪天の中突っ込んでもガスに巻かれて視界が無いとなれば登頂できたとしても、新たなリスクが生じる。単独なのでそこら辺は慎重に、計画を考え直しての判断だった。

**8月26日(土) 天候：曇りのち 晴れ**

土曜日の朝が来た。いよいよ単独山行の幕開けだ。緊張や期待から胸が高鳴る。稲子湯でバスを降りると、雨は上がり、青空が雲の隙間から見え隠れした。早速支度を済ませる。隣にいた女性二人組のパーティーと少し会話を交わして、早速登山口へ。緩やかな登りが続く。歩き始めとしてはまだ動かすことに慣れていないからだに優しい道である。コマドリ沢で休憩を取り、地図を確認する。ここまでなかなかいいペースで来ている。コースタイムより早いくらいだ。やはり一人だと、知らず知らずのうちにペースが上がってしまうのかもしれない。

樹林帯をさらに進むと、ミドリ池キャンプ場の案内があらわれ、間もなくしらびそ小屋に到着した。ミドリ池を眺めながらここで昼食とした。先着の何組かのパーティーもランチタイムのようだ。一人で来ていると、おのずから休憩時間も短くなる。先着のパーティーを残して、しらびそ小屋を発つ。しばらくするとのぼりの傾斜がきつくなってきた。地図を確認するところ急登を登り切れれば中山峠だと気づく。のぼりの途中、鎖まで出てきて、少しうんざりする。ところどころ立ち止まって呼吸を整えながら、登り続けると、中山峠に到着した。中山峠からは整備された木道を通って、間もなく黒百合ヒュッテに到着した。

黒百合ヒュッテに到着したのが早かったため、最初は空いていて「こんなもんか」という感じだったが、夕方になるにつれて宿泊客がとめどなく流れ込んできて、夕方16時には夕飯の

時間までどこにいればいいの、ってくらいヒュッテは登山客でごった返した。ヒュッテのスタッフさん曰く、「この夏最高の客の入り」らしい。ヒュッテでは、何組かのパーティーと会話を楽しんだり、星空を見たり、ちょっと硬いハンバーグをほおぼったりしながら、ゆったりとした時間を楽しんだ。

コース：稲子湯～しらびそ小屋～中山峠～黒百合ヒュッテ

8月17日(日) 天候：晴れ

周りが皆準備でバタバタしている中、朝4時半、のっそりと起床。5時に朝食を終え、仲良くなったパーティーに別れを告げて、出発。初っ端から巨石が転がる天狗の奥庭を、息を切らしながらよじ登る。雲海の上を朝日が照らして、神々しい風景が広がる。東天狗岳頂上直下までやってきて、最後の登りが待ち受ける。以前積雪期に登った時も、「この登りを終えれば頂上だ！」と思いながら登ったことを思い出した。

東天狗岳の山頂は大賑わいで、皆が思い思いのポーズで記念写真を撮っている。私も登山者の方に頼んでぱちりと一枚。向こうに蓼科山や北横岳も見える。しばらくして、西天狗岳に向けて下降を開始する。西天狗岳は東天狗に比べると少し山頂も落ち着いていた。こちらでも登山者の方にお願ひして写真を撮り合う。こちらは赤岳がバックに映える。こうやってみると、赤岳って結構急峻だなあ、なんて思う。よく積雪期に登ったもんだと感心してしまう。山頂の景色を満喫したら、西尾根を下っていく。この西尾根、はじめは巨石の転がるワイルドな下降路となっており、なかなかスリリングなのである。巨石ごろごろゾーンを過ぎると、次は木の根っこゾーンに突入。ストックが木の根っこに引っかかって歩きづらい。ぶつぶつ独り言を言いながら下山を続けていると、唐沢鉱泉に到着。ここの温泉もなかなかのものらしいが、交通手段がバスだと、唐沢鉱泉からの足がないため、なかなかここで一風呂浴びていこうという気が起こらない。でもいつかは入浴してみたいものだ。

あとは渋の湯に向けてもうひと歩き。渋の湯への道がわからず鉱泉の方に尋ねると、ホントすぐそこですよ、と少々あきれ気味でご教示いただく。教えていただいた道をしばらく行くと途中から踏み跡が不明瞭で、目印のテープも見当たらなくなってしまった。うーん、道迷いの予感。道に自信がなくなったので、いったん唐沢鉱泉まで戻り、渋の湯まで行くパーティーを探して、付いて行かせてもらうことにした(笑)。運よく通りかかったパーティーが渋の湯まで行くというのでお邪魔させていただいた。しばらく歩くと、途中で道が分岐していて、「渋の湯」と書かれた看板があるではないか。どうやらさっき一人で歩いていたときは見落としていたらしい。お恥ずかしい。途中で同行させていただいたパーティーと別れ、北八ヶ岳の森らしい雰囲気満点のトレイルを一人静かに楽しんだ。小一時間ほどで渋の湯に到着し、温泉で汗を流してこの二日間の山行を思い起こし、達成感に浸って締めくくりとした。

コース：黒百合ヒュッテ～天狗の奥庭～東天狗岳～西天狗岳～西尾根
～唐沢鉱泉～渋の湯

以上